

IBARAMA III
後期 第2講

はじめに

- 第0章(p.4-6)
 - 毎時間、最初にこの作業を実施します
 - 実施すること
 - 開発タブの表示
 - マクロのセキュリティの変更
 - 変数の宣言を強制
 - Excelの再起動

前回のファイルは保存できていますか？

- 練習1.xlsm または 練習1.xlsx
 - 後者の人は要注意
- xlsx(ブック)では、プログラム(マクロ)の保存ができない
 - 頑張ってプログラミングした結果がすべて失われてしまう！
- 「作成したファイルの保存」(p.13)を確認すること

練習1の解説

- p.10
- `Cells.Interior.Color = RGB(255, 0, 0)`
- ピリオドは「of」 「～の」
- 「=」は代入
 - 数学で使う場合と意味が違う
 - 右辺の値を、左辺に代入する

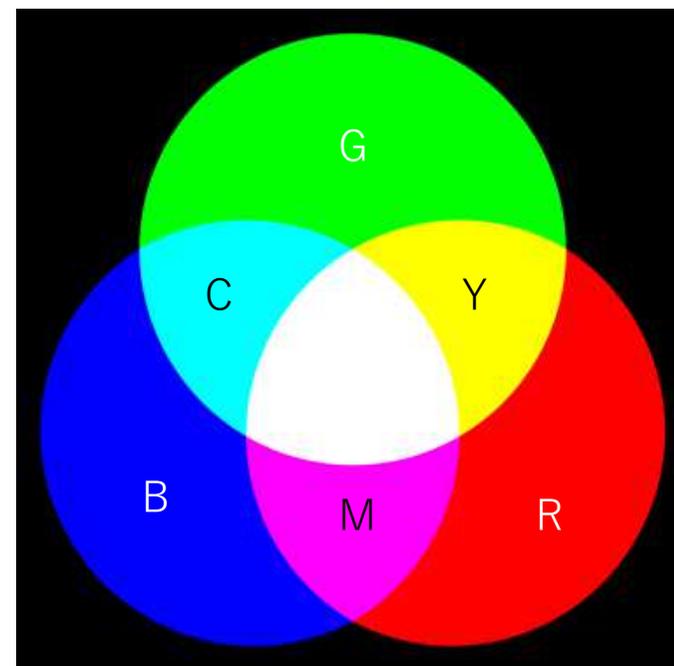
代入について

- $x = 2$
 - x という文字(変数)に2を代入する
- $a = b$
 - a という文字(変数)に b という文字(変数)の中身を代入する
- $x = x + 1$

- 代入に $=$ ではない記号を割り当てているプログラミング言語も存在する
 - (例) $x := 2$ (Pascal)

色(RGB/CMY)について

- 教科書(p59-61)参照
- 各色(R/G/B)0-255の256段階
 - $256 = 2^8$ なので、2進数だと8桁
 - 各色8bit、3色で24bit → 24bitカラー
 - $256 = 16^2$ なので、16進数だと2桁(00-ff)
- RGB; 自ら発光する画面の色
 - 加法混色、全て混ぜると白
- CMY; 印刷物など色を反射する物の色
 - 減法混色、全て混ぜると黒



Webセーフカラー

- RGBを6段階に分けて組み合わせた216色
 - 0, 51, 102, 153, 204, 255 (16進数で 00, 33, 66, 99, cc, ff)
- 「セーフ」とは
 - 256色しか表示できない環境でも、異なる色に表示されない安全な色
- ウェブカラー(Wikipedia)
 - <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%96%E3%82%AB%E3%83%A9%E3%83%BC>

演習 – RGBの理解

- p.11をやってみよう
- p.11の色は全部覚えておくこと。試験に出ます
- RGB(300,300,300)これでも表示はできるが、論理的に間違っているなので、試験では間違いと判断します

実行の中断を解消する方法

- p.11
- 「ボタンを押してもプログラムが動かない」というとき
- スペルミス等で、前回の実行が途中で中断した状態であれば
 - 「■」(リセット)ボタンを押して中断状態を解除
 - この操作でボタンを押したら動作するようになる

指定範囲の色をなくす

- p.11-12
- 以下の2つは違う状態です
 - 塗っていない
 - 全体を白で塗った

演習 – 複数のボタン

- p.12
- もし、ボタン2_Click()がModule2に作成された場合
 - Module1にまとめることも可能
 - プログラムの切り取り→貼り付けでModule1にまとめる
 - Module2を解放する

任意の名前のプログラムの作成と実行

- p.14
- aaa()という名前でプログラムを作成します
- このプログラムを実行する方法
 - ① Excelの開発→マクロから、プログラムaaa()を選ぶ
 - ②ボタン1を右クリック、マクロの登録をクリックする
ボタン1を押したときのプログラムをaaa()にする

演習 – 基礎課題1

- p.15の基礎課題1を実施し、ファイルをデスクトップ上に保存しておくこと
- ファイル名は「基礎1.xlsm」とすること
 - 1は半角文字にすること、そうしないと採点できません